

<総括>

出題数 現代文2題

試験時間 80分

大問一 本文はやや難化。設問数には変化なし。記述量は昨年並み。

大問二 本文はやや易化。空所補充や語句の意味説明問題が新たに出題された。記述量は減少。

<本文分析>

大問番号	一	二
出典 (作者)	『加藤周一セレクション1 科学の方法と文学の擁護』 加藤周一	『エリートと教養』 村上陽一郎
頻出度合 ・的中等	入試によく見られる作家である。	入試によく見られる作家である。
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2870字→約2640字	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2610字→約2970字
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	問1	論述	標準	「学際的な方法」を説明する。 「あきらめきれない」理由を説明する。 科学的な知識の限界を説明する。 「ヴェトナム戦争」と「彼女」の例に即して「そういうもの」という指示内容を説明する。 「どのような事態」を避けるために「そういう方法」が求められるのかを説明する。 「信じる」という行為を実現するために必要なものを説明する。
		問2	論述	標準	
		問3	論述	標準	
		問4	論述	やや易	
		問5	論述	標準	
		問6	論述	やや難	
二	評論	問1	記述	標準	慣用句の辞書的な意味を答える。 教養の「胡散臭さ」の生じる原因を説明する。 15字で、「邪魔」することを説明する。 空所に接続語を埋める。 「あまつさえ」「大義」「厭わない」に着目して傍線部を説明する。 「こうした状況に異を唱えること」「罪」「功績」に着目して傍線部を説明する。 筆者の理解する「慎み」を説明する。
		問2	論述	やや易	
		問3	記述	標準	
		問4	客観	難	
		問5	論述	標準	
		問6	論述	やや難	
		問7	論述	標準	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

日頃から、色々な文章になじんでおく。
書き取りは出ないが、読解の基礎なので対策を講じておこう。
長大な論述に慣れておく。